

---

# 真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ ～毎日が記念日 365日の小噺～

春夏秋冬 廻

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ ～毎日が記念日 3  
65日の小嘸～

### 【Nコード】

N3348W

### 【作者名】

春夏秋冬 廻

### 【あらすじ】

特に意味のない作者自己満足の作品です。毎日何かを書くことの思いつきのもと、1年毎日何かしらの記念日がある事に目をつけて適当に作ったものです。見ても面白くなく意味のないものなので自己満足と自己責任でどうぞ。皆さんの雑学の1つの足しにでもなればいいかな？ 毎日のユニークアクセスが100以上……思った以上に見えてただ嬉しいです。

7月25日は？

「今日は『かき氷の日』だぞジン！」

「いきなりどうしたの？ モモちゃん」

「だ〜か〜ら〜！ 今日7月25日は『かき氷の日』なんだぞ！」

「ああ、7月25日の語呂合わせでかき氷の昔の呼び方『夏氷（<sup>ツ</sup>7<sub>な</sub>25おり）』だね」

「なんだ、そんな意味だったのか」

「知らなかったの？ じゃあなんで僕にそんな事を言ったの？」

「かき氷が食べたい！」

「結局それなんだね……」

10分後。

「そついえばモモちゃん。今日は『かき氷の日』だけど『知覚過敏の日』でもあるから、歯に染みないように気をつけてね」

「もっと早く言ええええええ」

7月26日は？

「そついえばモモちゃん。今日が何の日か知っている？」

「知らないぞ、私は知らないぞ、ジン、私は今日が何の日か絶対に知らないぞ」

「なんで怯えているの？ 今日って確か」

「私は知らないぞ！ 今日が『幽霊の日』だなんて知らないからな！」

「『幽霊の日』？ ああ、この間鉄心さんが言ってたね。何でも」

「四谷怪談の初演の日なんて知らないからな！」

「自分で言つて怯えてどうするんだよモモちゃん。僕が言おうとしたのは『ポツダム宣言記念日』の事だったんだけど……」

「え？」

7月27日は？

「ジン！ スイカを食うぞ！」

「何モモちゃん。また何かの記念日だって言うの？」

「そうだ！ 今日7月27日は『スイカの日』なんだ！ だからスイカを食う！」

「食べ物ばっかだねモモちゃんは」

「そもそも何で『スイカの日』なんだ？」

「えっと確か、スイカが夏の果物を代表する『横綱』だから、語呂合わせじゃないかな？」

「7月27日をどう考えればスイカに繋がるって言うんだ」

「727がそれぞれ『なつな』になるから、『夏』と『綱』の2つを意味して『夏の綱』。それで『夏の横綱』って意味でスイカなんじゃないかな？」

「考えた奴アホだろ」

7月28日は？

「なージン、今日が『浪速の日』だって知ってたか？」

「『浪速の日』？ ああ7月28日の語呂合わせで『728<sup>なにわ</sup>の日』だね」

「そうだ。だから今日1日は関西弁で話そうと思うとるんやけど、どうやる？」

「何でいきなり関西弁なのか分かんないけど」

「ええやないか。なんや楽しそうやんか！ ちゅーことで、私は今日1日を関西弁で過ごすからな！」

「楽しそうに行っちゃったけど絶対無理だよな………そういえば『葉っぱの日』でもあるんだよね今日は」

7月29日は？

「なあジン。お前はカレーには福神漬か？ それともラッキョウ漬か？」

「またいきなり唐突だねモモちゃん。何？ また何かの記念日なの？」

「ああ、何でも今日は『福神漬の日』らしい」

「なるほど、だから今日はモモちゃんのリクエストでカレーなんだ」

「なあジン、何で今日が『福神漬の日』なんだ？ 語呂合わせも合わないだろ」

「福神漬の名前の由来が『七福神』だからじゃないかな？ ほら今日は7月29日、『<sup>しち</sup>7<sup>ふく</sup>29』でしょ？」

「ややこしいな。もっと分かりやす日にしろよな」

7月30日は？

「神！ モモを何とかせんか！」

「どうしたんですか鉄心さん。なんか騒がしいですけど？」

「どうもこうもないわ！ お主のせいでモモがところ構わず門下生にドロップキックをかましとるんじゃない！」

「何で僕のせいなんですか？」

「モモがお主に今日は『プロレス記念日』だと教えてもらったと言っ  
ておったぞ！」

「いや確かに教えましたけど、その事とモモちゃんのドロップキックがどう繋がるんですか？ 僕には関係ないじゃないですか！」

「つべこべ言わんでとつとモモを止めてこんかい！ 連帯責任じゃ！」

「理不尽ですよ！？」

7月31日は？

「なあジン。私は人は信じれば空を飛べると思っただ」

「いつも思っけど本当に唐突だねモモちゃん。それで？ 何でそう思っただの？」

「ああ、何でも今日は『パラグライダーの日』らしい」

「だから信じれば空も飛べると思っただの？ モモちゃんのためにはつきり言っけど、人間の身体の構造上、空を飛ぶのは不可能だからね？」

「でもテレビを見る！ あの人たちは気を身体に纏って空を飛んでいるんだぞ！？ 同じように気を纏える私たちも！」

「うん。それ以上はなんかヤバイそうだから言わないでねモモちゃん」

8月1日は？

「なあジン、『国土無双』って何だ？」

「『国土無双』？ 何でいきなりそんなこと気くんだ？」

「いいから答えろ。今の私にはとても重要な事だ」

「別にいいけど……『国土無双』ってのは国中で並ぶ者が無いほど優れた人物のことを言うんだよ」

「ふうん。それ以外に何か意味があるのか？」

「あとは麻雀の役の名前だな。13種すべての？九牌を揃えてそのうちのどれか1つを雀頭ジャントウとした役満だ。そっぴやあ今日は8月1日ハイ『81』の語呂合わせで『麻雀の日』だったな……ってモモ？」

「ジジー！ 国土無双の意味分かったぞー！ 私にも麻雀やらせろ！」

「何やってんですか鉄心さん！？」

「あれ？ 今日俺様の誕生日だけど誰も祝ってくれないの？」

8月2日は？

「モモ。お主パンツは買ったのか？」

「いきなりなんだクソジジイ。よもや孫娘にまで欲情し始めたのか、近付くなこのペドフィリアブルセラジジイ」

「相変わらずいい度胸しとるのう。というかどこでそんな言葉を覚えてくるんじやお主は……まあ今はいい」

「気持ち悪いぞジジイ。いったい何の用だ」

「今日が『パンツの日』だという事を知っとるか？」

「なんだその変態親父が喜びそうな記念日は？」

「ちゃんとした下着メーカーが決めた記念日じゃバカたれ」

「それは分かったけど、何で私に言うんだ？」

「今日は女が惚れた男にこっそりとパンツをプレゼントする日なんじゃよ」

「だ・か・ら！ 何で私にそんな事を言うんだ!？」

8月3日は？

「私は1度だけでいいから熊になってみたいぞ。そして思いっきりはちみつを腹いっぱいになるまで食べたい！」

「なんだいきなり？ 生まれ変わったらってやつか？」

「いや違つぞ。今日は『はちみつの日』らしい」

「だから熊になつてみたいって安直だなモモ……」

「知つてたか？ 熊は蜂に刺されて死なないらしいぞ。しかもスズメバチの天敵らしい」

「刺されても死なないっているよりは、蜂の毒針が届かないだけだろ。熊の体毛はタワシ並みに固いし体毛も結構長いからな」

「ああ！ やっぱり1度熊になつてみたい！」

「モモの場合スズメバチに刺されても平気そうだけどな」

8月4日は？

「『吊り橋効果』と言うものがあるらしいな」

「いつもながら本当に唐突だなモモ。それで？ 今日遊園地に来た事とその発言には何か意味があるのか？」

「男女が危険を共に体験すると連帯感や恋愛感情が生まれるという効果らしいが、お前は思うジン？」

「うん。それはジェットコースターのとっぺんに居るこの状況で話す事なのか？」

「今だから話すんだ。どう思う」

「一種に恋愛勘違い症候群だろ。そもそも俺たちジェットコースターに乗っているだけで危機感を感じるか？」

「そこは盲点だったな……」

「今日が8月4日の『橋の日』だからだと思うけど、俺としては『箸の日』の方が妥当だと思っただけど、お前は思うモモ？」

「凄い速さで落下しているのに余裕だなお前……」

8月5日は？

「どうしたんだモモ。じつとダンボールを見て」

「なあジン。人間1人を入れようとすると、どれだけの大きさのダンボールが必要だと思う？」

「……鉄心さんをダンボール箱詰めにもするつもりなのか？」

「誰がそんなことするか！？ だた今日が『ハコの日』らしいからちよつと疑問に思った事を言っただけだろ！？」

「8月5日だから『8<sup>ハコ</sup>5の日』か」

「そついう事だ。それでどれだえの大きさが必要かな？」

「やけにこだわるな？ 本当にただ疑問に思っただけか？」

「……………ああ（言えるわけない。箱に入ってジンの誕生日に『私がプレゼント』なんて恥ずかしい事を一瞬でも考えてしまったなんて言えるわけない！！）」

8月6日は？

「朝から黙祷なんてどうしてメンドくさい事しなきゃならないんだ」

「寺院の娘がなに言ってるんだモモ。それに今日8月6日は広島の『平和祈念の日』なんだから」

「分かってるけど、川神院は武術の総本山だぞ？　あまりそういうった事には関係ないと思っていただけだな」

「それでも寺院の院号を貰っているし、鉄心さんは戦争経験者だからから思い入れも一人ひとしおなんだろ」

「そういうものなのかな？」

「そういうものなんだろ」

「私としては『ハムの日』の方がありがたいけどな」

「結局は食べ物なんだなモモは」

8月7日は？

「テレビをニュースを見てるなんて珍しいな？ 何か興味を引く事でもやってたか？」

「なあジン。何で仙台の七夕祭りは7月じゃなくて8月にやるんだ？」

「あれ？ モモ知らなかったのか？」

「知らないから聞いている」

「旧暦だよ。七夕といえば7月7日だけどそれは明治以降の新暦。旧暦の7月7日は新暦では8月6日頃なんだよ。だから今日は『月遅れ七夕』とも呼ばれてる」

「ふうん。だから七夕祭りは8月にやるのか」

「そういう事。それよりもバナナ食べるか？」

「もちろん食べるぞ」

（8月7日は『バナナの日』でもあるんだけどモモは知ってたかな？）

8月8日は？

「どうしたジン？ ぼつと外を見て何か考えごとか？」

「いや、ちよつとな？」

「悩みならお姉さんが聞いてやる。何でも話せ。さあ話せ！」

「もはや脅しだよモモ……大した事じゃないんだけど、ヤマが8月8日は『親孝行の日』だって言ってたからな……」

「何で『親孝行の日』なんだ？」

「88が『88』<sup>はは</sup>『88』<sup>ババ</sup>と読める事と、『ハチハチ』を並びかえると『母・父』と読める事かららしい」

「それがどうして ああ……悪い……お前は両親の顔知らないんだっとな」

「別に気にするな。ちよつと考えていただけだよ」

（今日はお前の誕生日なの忘れてるだろ。ジジイ、今日を誕生日にしたの失敗だったな）

8月9日は？

「メンドくさい。メンドくさい！ 本当にメンドくさいぞ！ ジン！」

「だから仕方ないって言ってるだろ？ 8月9日は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の日なんだから。広島の平和記念の日と同じだろ」

「だからって何で私たちまで付き合わなきゃなんないんだ！？ 私たちには本当関係ないだろ！」

「戦争を忘れないためだろ。事実俺たちの年代は戦争知らないんだから」

「戦争が起きたら私が戦地につて全員を殲滅してやる！」

「出来そうで怖いぞお前のその発言は……後でファミリー集めて野球でもするか。ちょうど今日8月9日は『野球の日』だからな」

「よし！ とつとと全員を集めるジン！」

8月10日は？

「うーん……これは違う……これもなんか変だな」

「あのさモモ。買い物に付き合うのは別に構わないけど、何で帽子選びに俺に似合う似合わないを試す必要が？」

「お前に誕生日プレゼントを渡してなかったからな。今日は『帽子の日』でもあるからついでにと思ってな」

「8月10日で『8<sup>ハット</sup>10』で帽子か。それよりモモ、誕生日プレゼントはみんなから貰ったぞ」

「私個人のプレゼントだ。いいから動くな」

「はいはい」

「うーん……これもなんか違う……これも全然似合っていない！ ああ！ その鬱陶しい長い髪をなんとかしろ！」

「なんだよその理不尽は！？ 髪を伸ばせって言ったのはモモだろ！？」

8月11日は？

「お姉様〜！」

「おおワン子！ こっちだぞー！」

「ねえお姉様、用事って何？」

「聞いて驚けワン子！ 今日は何とワン子を称える日なのだ！」

「ええ？ アタシ呪われちゃうの！？」

「いやワン子、それは『祟る』だ。私が言ったのは『称える』だからお前を褒めているんだ」

「え？ お姉様がアタシを褒めてくれるの？」

「そうだぞ妹よ。今日8月11日はなんと『ガンバレの日』なんだ！ だから頑張っている妹を私は姉として褒め称えてやろう！」

「ありがとーお姉様！ でもアタシは毎日が『ガンバレの日』！ これからもお姉様に近付くために頑張るわよ！！」

「うん、私の妹は本当にかわゆいな」

8月12日は？

「君が代って正式な国歌じゃなかったって知ってたかジン？」

「ん？ 一時期問題なってたあれか？ 学校の式典で歌うとかどうかと言ってたな」

「そうそれだ」

「それがどうかしたのか、モモ？」

「いや、今それどうなったのかと思ってな。今でもよく国歌斉唱で歌われてるだろ？」

「ヤマが言ってたけど、1999年に『国旗国歌法』により正式に国歌になったらしい。しかも8月12日を『君が代記念日』にしたらしいぞ」

「それって遅すぎじゃないか？」

「遅いだろ。ヤマが言うには歌詞は10世紀の『古今和歌集』の1編で、曲は1880年の明治13年に作られて国歌として扱われたらしい。そう考えると実に119年だ」

「私はそれを知ってる大和がおかしいと思うが……」

「同感だ」

8月13日は？

「ねえガクト。今日は何の日か知ってる？」

「なんだモロ？ 別にただの何でもない日だろ？」

「違うよ。今日は『函館夜景の日』だよ。1991年から実施されているんだって」

「そん豆知識なんの役に立ってんだ」

「知らないよりは知ってる方がいいでしょ」

「そもそも何で今日がその『函館夜景の日』なんだよ？」

「たぶん8月13日の語呂合わせで『8』を『夜<sup>や</sup>』、『13』をトランプのKにして『景<sup>けい</sup>』。それで『813<sup>やけい</sup>』にしたんじゃないかな」

「メンドくさい考え方だな」

「そう言ったら終わりだけどね」

「まあ夜景は綺麗だと思うぜ。『夜景がやけいに綺麗だな』って言うしな」

「なんて寒さのオヤジギャグ！？」

8月14日は？

「大和知ってた？ 今日『グリーンデー』って言うらしいよ？」

「なんかの記念日なのか？」

「うん。韓国の記念日なんだけど、8月14日は恋人同士で森林浴をする日なんだって」

「うん。それは分かったけど何で俺は公園につれてこられて何で前は服を脱ごうとしているのかな京さん？」

「だって森林浴って本当は裸でするんでしょ？」

「どこからの知識だそれは。その俺たちは恋人同士じゃないだろ」

「うん。だから今ここで恋人いならうよ大和。好きです付き合ってください」

「お友達として緑色のボトルに入った安価なジュースを飲んで互いを慰め合おう。本来は焼酎らしいんだけどな」

「知ってたなんてさすが博識な大和。好きです」

「だからお友達で」

## 8月15日は？

「1945年の今日8月15日に日本は終戦を迎えた。それを忘れたために今日は『終戦記念日』であり、それに伴う使者を追悼するための『戦死者を追悼し平和を祈念する日』でもある」

「だから何だってんだジジイ」

「よって今日の全国戦没者追悼式に合わせて正午に黙祷をおこなう」

「またかよ。いい加減関係ない私たちにそれを強制させるな」

「強制ではない馬鹿孫が。これは義務じゃ」

「義務でも誰がやるかジジイ。そもそもジジイがその気になれば世界大戦も勝てたんじゃないのか？」

「戦争を個人の思想で決着させていいわけあるか。少しは考えんかこの馬鹿孫が！」

「はっ！ どうせ腰が抜けて出来なかったんだろ！ 私なら一瞬で殲滅させてやるけどな！」

「相変わらずいい度胸じゃなモモ！ その性根叩き直してやる！」

「上等だジジイ！」

「ハイハイ。ワタシたちは準備を進めるヨ、後は任せたヨ、ジン」

「結局俺なんですネ」

8月16日は？

「なあ知ってるかタカ？」

「なに岳人くん」

「今日はなんと『女子大生の日』らしんだとよ」

「……………」

「何でも日本で初めて女子大生が誕生した日らしくてな、それまで女で大学の入試の合格者は1人もいなかったって言うんだぜ」

「……………」

「女子大生だぜ女子大生！ いい響きだと思わないか？ なあタカ？」

「私の可愛い緋鷲刀に何をいかがわしい事を吹き込んでいる？」

「げっ！？」

「あ、凜奈さん」

「いい度胸だな島津の坊主。これはアレか？ 死ぬ覚悟は出来たという事か？」

「いや、その、ごめんなさい！」

「問答無用だ」

（岳人くん。凜奈さんがその現役女子大生だと知ったらどう思うかな？）

8月17日は？

「おいキャップ、なんだこの大量のパイナップルは？」

「いや、親父がなんか沖縄で貰って来たらしいんだ」

「何でまたこんな大量のパイナップルを……」

「何でも今日は『パイナップルの日』らしいぜ。変な日だよな？」

「語呂合わせだろ。8月17日で『<sup>パイナ</sup>817ツプル』」

「ん？ おお！ 言われてみればそうだな！ なんかそう考えると  
おもしれーな！ なあ大和！ 俺たちもなんかそういった記念日作  
ろうぜ！」

「作ってどうするんだ」

「その日を毎年俺たち風間ファミリーで祝うんだ」

「混沌とした宴にしかない気がするんだが、俺の気のせいかな？」

8月18日は？

「そっぴゃあ今年の高校野球はどこが優勝するかな？」

「あんま気にならないからな。どこでもいいだろ。俺様はしらん」

「ガクトには聞いてないよ。それより知ってる？ 今日『高校野球記念日』なんだよ」

「それってどうして？」

「いい質問だヒロ。実は1915年の今日に1回目の全国高校野球大会が始まったんだ」

「人の言葉取らないでよ大和！ ちなみに会場が甲子園に変わったのは第10回から。名称が全国高校野球選手権大会に変わったのは昭和23年からなんだよ」

「無駄な知識。あんま必要ないと思うよヒロ」

「大和くんも必要な知識とは思えないけど、そん辺はどうなの京ちゃん」

「博識な大和、カッコイイ」

「京は結局そこにいくのかよ。俺様には理解できねーよ」

8月19日は？

「今日は『俳句の日』らしいからみんなで俳句を詠んでみようぜ！」

「キャップ。子供の俺たちに季語を含めた俳句は難しい。川柳でいくべきだ」

「じゃあそれで！ 10分後順番に発表だ！」

10分後。

夏の日の みんなと一緒にの この時間 師岡卓也

夏の夜に 暗闇を照らす 火の大花 直江大和

夏空の 夕立の後に 虹かかる 篁緋鷺刀

夕涼み 縁日廻る 仲間たち 暁神

俺様は 最強無敵の 岳人様 島津岳

冒険が いつでも呼んでる この俺を 風間翔一

どんな日も 夢を目指して 頑張るぞ 川神一子

強い奴 早く私の 前に来い 川神百代

将来は 直江京に なっている 椎名京

「なあヒロ。これはもはや川柳ですらないだろ」

「最後なんか願望だよね。ジン兄」

8月20日は？

「知ってた？ 今日『交通信号設置記念日』なんだよ」

「またモロの無駄な雑学知識が始まった」

「タクには厳しいなミヤ。ヤマとの反応が全く違う」

「私にとって大和が正義。大和と仲間以外はゴミに等しいの。分かるジン兄？」

「分かりたくもないぞミヤ。もう少し人付き合いをよくしろ。じゃなきゃいつかどうしようもなくなるぞ？」

「……ジン兄の言葉も分からないでもないけど……やっぱり人は怖い。いつかまたあの時みたいになるか分かんないもん」

「そうか……」

「僕の話、全く聞いてないよね2人とも……」

8月21日は？

「知っていますかユキ？　今日は『献血の日』なんですよ？」

「『献血の日』？　献血をしなさいって日なの？」

「違う。今日は献血制度が出来た日なんだよ。血つてのは昔は売血制度があつて自分で血を売っていたが、1964年にその制をが廃止し、輸血を献血で確保する体制を確立するよう決まったんだ」

「準の言う通りです。実際は1978年に完全に確立した制度なんですけどね」

「ふん……ねえねえトーマ。血っていくらぐらいで売れるの？」

「難しい質問ですね。輸血用のパック400？がだいたい1万8千円前後ですね」

「じゃあ人間の血液つてだいたいどれぐらいあるの？」

「人の血液量はその人の体重の約8%ですよ」

「俺の今の体重が47キロだから約4リットルだな」

「じゃあ準の血を全部売っても18万にしかないんだ。つまんないな」

「怖い事言わないでくれ！！」

8月22日は？

「8月22日は実は1903年に東京で初めて路面電車が走った日なんだよ」

「おい大和。急にモロが何か語り出したぞ」

「誰だよモロに電車のお話を振ったのは？ ガクトか？」

「お、俺様じゃないからな」

「思いつきり語るに落ちてるなガク」

「雉も鳴かずんば撃たれないのにね。しょーもない」

「ねえねえ誰かと止めてよあれ」

「無理だよー子ちゃん」

「それでね、それを記念して今日8月22日は『チンチン電車の日』<sup>1</sup>になつてゐるんだ」

「女子の前で隠す事無く卑猥な言葉を吐くとは、成長したなモロロ」

「え？」

「あ、止まった」

8月23日は？

「あっちーな！　こんだけ暑いとハワイに行きたいぜ！」

「何で暑い時にさらに暑い所に行きたいんだよキャップは」

「なんでってその方が楽しいだろ！？」

「楽しむ前に暑さでどうにかなりそうだよ」

「ヒロの意見に賛成だ。とにかく今は涼みたいぞ」

「ようし！　俺がウクレレを弾いてやるから楽しめ！」

「話聞けよキャップ！　ていうか何でウクレレなんか持ってんだよ！？」

「さっきそこで『今日はウクレレの日だから君のもあげる』って言うてアメリカ人ばい人が俺にくれたんだよ」

「どういう遭遇率なのそれ？　何をどうすれば『ウクレレの日』にウクレレ持っている人に会うの？」

「キャップだからだろ」

「否定できないから怖いよね」

8月24日は？

「今日は『愛酒の日』だぞ！」

「力説しているところ悪いがモモ、俺たちはまだ未成年だ。飲酒なんてしたら鉄心さんに何を言われるか分からんぞ」

「それぐらいは理解している。だからこれを持っていた！」

「それは川神水！」

「ねえジン兄、いやな予感しかないんだけど」

「奇遇だなヒロ。俺も今そう思っていたところだ」

「さあ1人1本しか持ってたが飲め！飲んで楽しもうじゃないか！」

「既に目的が透けて見えているぞもも」

8月25日は？

「いきなりだがみんはなカップ麺って言ったら何が好きだ？」

「ホントに急だねキャップ」

「さっきテレビ見てたら今日が『即席ラーメン記念日』らしい。だから気になって聞いてみた。ちなみに俺はやっぱり王道の『カップ  
ードル』だ！」

「感性にいきてるなうちのキャップは。ちなみに私は『王・しよ  
うゆ味』だ」

「姉さんが言えるのそれ？ 俺は『シーフード ードル』だな」

「よく突っ込んだね大和。僕は『チキ ラーメン』かなやっぱり」

「モロ自体がチキンだもんな。俺様は『焼きそばU・O』だぜ」

「ガクトもチキンでしょ。私は『職人・坦々麺』。やっぱりこれ」

「京は相変わらず辛党ね。アタシは『の達人』よ！」

「僕は『ど 兵衛・きつねうどん』。これだけは絶対譲れないよ」

「ヒロのうどん好きも凄いな。俺は『ス キヤカップ麺』だ」

「……………何それ？……………」

「え？」

8月26日は？

「1789年のこの日、フランスの憲法制定国民議会が『人間と市民の権利の宣言』、つまり『フランス人権宣言』を採択した！」

「歴史的には凄い日だな」

「そして今日8月26日は『人権宣言記念日』でもある！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 俺は今日をもって姉さんの横暴に真正面から戦うことを宣言する！ いい加減舎弟にも人権が必要だ！」

「あのさヤマ。盛り上がっているところ非常に申し訳ないんだが……」

「なんだ兄弟？」

「お前の後ろにモモがいるからな」

「……………え？」

8月27日は？

「そっといえばモモ」

「なんだジン？」

「武道四天王って近くにはいないのか？」

「いるぞ。葛飾柴又だ。鉄家と言えばお前も分かるだろ？」

「ああ、あの護らせたら敵はいないっていう鉄家のことか。あの一族って葛飾柴又に住んでいるのか。行かないのか？」

「ジジイに行くなって言われているんだよ。でなきゃ速攻で勝負に行っている」

「当たり前じゃ。きつく言っておかんとすぐに行くからのお前は」

「いきなり出てくるなジジイ。何の用だ」

「なに、葛飾柴田と聞こえてのう。そっといえば今日が『男はつらいよの日』だと思い出したか今からDVDを借りに行くんじゃない」

「発音はDVDディーブイデーですから」

「じゃあの」

「あのジジイは何が言いたかったんだ？」

「ユズ。」

8月28日は？

「そういえば日本民間放送連盟ってところが今日を『テレビCMの日』に制定したみたいだね」

「相変わらず変な情報早いねモロ」

「あれだろ、民放テレビがスタートしたのも今日だろ？ だから同じ日で制定したんだろ」

「さすが大和は博識だね」

「なんだろこの差は……」

「落ち込むなモロ。所詮お前はモロなんだ。どれだけ頑張ってもモロなんだよ」

「意味分かんないからねガクト。っていうかその慰め方やめてくれない？　なんかそれ僕の名前を貶されてる感じがするんだけど」

「ワリイワリイ」

「やっぱりあの2人怪しい……BL臭がする」

「そう言ってるお前が怪しいからな京」

8月29日は？

「てめえワン子！ それは俺様の肉だ！」

「早い者勝ちよガクト！」

「ガクトもワン子も肉ばかり食べてないで野菜も食べなよ」

「はい大和。タレ持って来たよ」

「ありがいたが京、なんだこのヤバイ感じに真っ赤なタレは？」

「モモ先輩ずるいぞ！ 肉食うだけで人を吹っ飛ばすなよ！」

「ハッハッハッハ！ まさに弱肉強食だなキャップ！」

「なんだろねこれ……地獄絵図？ ただの焼肉パーティーがなんでこんな混沌とした宴になったんだろうね。せつかくの『焼き肉の日』なのに」

「最初から分かり切った事だったけどな。モモ、キャップ、カズ、ガクがいる時点でまともなパーティーになるわけがない。俺たちは俺たちで勝手に食べておこう。充分な量は確保してある」

「いいのかな？」

「心配ない。カズもモモも言っているだろ？ 『早い者勝ちで弱肉強食だ』ってな」

「ジン兄も意外とちゃっかりしてるよね」

8月30日は？

「どうしたモモ。じつと携帯を見つめて。迷惑メールでもきたか？」

「メール設定で来ないようにしてある」

「じゃあどうした？」

「これを見てくれ」

「なにになに？ 『ハッピーサンシャインデー』？ なんだこの明らかに無理矢理作ったような記念日は」

「830で『830』だそうハッピーサンシャインだ。どう考えたらこんな語呂合わせになるか問い詰めてやりたいのは確かだな。太陽のような明るい笑顔の人のための日らしい」

「それでお前は何を考えていたんだ？」

「いや、私たちの中では誰になるかなと思ってな」

「普通に考えてキャップかカズだろ」

「京じゃないのは間違いないな」

「モモでもないのも間違いないぞ」

「何か言ったか『彼氏』？」

「モモの笑顔が1番だと言っただよ『彼女』」

8月31日は？

「よし、今日は『野菜の日』だな。俺様の博識なところを見せてやるぜ！ おいお前ら」

「今日はモモ先輩の誕生日だぜ！ おめでとう！」

「誕生日おめでとう姉さん」

「おめでとうお姉様」

「モモ先輩、誕生日おめでとう」

「おめでとうモモ先輩」

「おめでとうございますモモ先輩」

「おめでとうモモ」

「みんなありがとな。プレゼントも嬉しかったぞ。でガクト？ お前は私に対するお祝いの言葉はないのか？ うん？ 猶予を10秒やる。それまで言わなければ制裁だ」

「……………あれ？」

「沈んでろ！」

「なんで俺様の時は誰も祝ってくれなかったのに……………なんでだよ…

…」

「そこがガクトとモモ先輩の違いだよ」

9月1日は？

「今日は『防災の日』ですけど川神院では防災訓練みたいなものはないんですか？」

「特にはしておらんのう。一応建物の耐震補強はしておるが」

「ワタシたちにはあまり地震は意味ないからネ」

「確かに地震が来ても津波が来ても大丈夫そうな人たちばかりですよ。その代表例が鉄心さんとモモですからね」

「ワタシからすれば君も十分に大丈夫に見えるよ」

「ホッホッホッホ。まあそれはそれとして自己で防災対策をするに越した事はない。なんせ今日は9月1日じゃからな。『悔い』を残さぬように、なんての」

（寒い、寒すぎます鉄心さん）

（それは明らかにダメなオヤジギャグです。鉄心様）

「ブリザード級のオヤジギャグだなジジイ」

9月2日は？

「なあジン、何で子供は宝くじが買えないんだ？」

「なんだいきなり？ 宝くじを買いたいのか？ 当たりもしないのに」

「当たるかもしれないだろ？ いやキャップに買わせれば1等とは言わなくても確実に当たりそうだろ！？」

「否定はしないけど無理だろ」

「なんでだ？」

「もし当たったとしても未成年場合、当たりくじの換金は保護者同伴だ。結局は自分ではなく保護者が管理する事になる」

「なんだつまらん」

「それ以前に売り場が『未成年の購入は教育上良くないとして自主規制』してるから、売ってもらう事すら難しいだろ。ていうかなんでそんな事を考えたんだ？」

「今日が『くじの日』だからだ！」

「9月2日だからか……いつも唐突だなホント」

9月3日は？

「うつしゃ！ こいキャップ！ 俺様が打ちのめしてやる！」

「へん！ 打てるもんなら打ってみろ！ くらえ！」

「元気だねあの2人は」

「モロ親父臭い。若者はもっと元気にやるべき。とつとあの中に行けば？」

「ここですつと本読んでる京よりはいいと思うんだけど……あ、ガクト三振した」

「次はジン兄だね。ガクトがこっちに来る」

「ねえ京知ってる？ 今日は『ホームランの日』なんだよ。巨人の王 治選手がホームランの世界記録を更新したのが今日なんだって」

「相も変わらず雑学多いねモロ。あ」

「ちつくしよゝなんで打てねえ あが！？」

「ジン兄の打ったボールがここまで飛んできてガクトの後頭部に直撃した」

「誰に説明してんの京！？ ていうかホームからここまで200メートル近くあるんだけど！？ いったいどれだけ飛んだのさ！？」

「だって、ジン兄だもん」

「納得するしかないじゃないか!!」

9月4日は？

「これはズルイよね、モモ先輩」

「ああ、これはないだろ。こいつら本当に男か？」

「なあヒロ、なんで俺たちはこんな事をされてさらに男の尊厳を踏み躪られるような言葉を言われなきゃいけないんだ？」

「何でだろうね。別に何か特別な事してないのに」

「だからズルイんだって事にジン兄もタカの気付くべき」

「そうだぞ。何でお前ら男なのに女の私たちより髪の毛の質がいいんだ」

「それこそ理不尽だろ？ だからって何で髪の毛を弄られなければならないんだ」

「『今日が『くしの日』だから』」

「物凄く意味不明な理由だよねそれ……」

9月5日は？

「そういえば今日って『国民栄誉賞の日』だね」

「いきなりだな大和」

「うん、ふと思い出したんだよ。1977年に通算ホームラン数の世界最高記録を作った王 治が、日本初の国民栄誉賞を受賞した日が今日なんだって」

「あの賞の基準っていったい何なんだ？」

「前人未到の偉業を成し遂げ、多くの国民から敬愛され、夢と希望を与えた人に贈られるらしいよ姉さん」

「ふうん、じゃああれか？ 紛争地帯に行つて両軍を殲滅すれば国民栄誉賞を貰えるんだな？ 前人未到の事だぞ？」

「いや姉さん？ 確かに前人未到だけど国民栄誉賞は贈られるものだからね？ 欲しいからといって貰えるものじゃないから。その辺勘違いしないでね？」

「なんだつまらん」

「それ以前にそんな事しても国民に与えるのは恐怖しかないよ」

9月6日は？

「お兄ちゃん！」

「いきなりどうしたモモ、何か悪いものでも食べたか？」

「お兄ちゃん！」

「ミヤ、悪ふざけはヤマに対してだけやってくれ」

「お兄ちゃん！」

「ん？ どうしたカズ？」

「「納得いかない！！」」

「なんだ？ いったいどうしたモモ、ミヤ」

「だから言っただろ。兄弟から見ても妹として接する事が出来るのはワンス子だけだつて。そもそも姉さんは年上だし京は妹って柄じゃないだろ」

「いったい何なんだヤマ？」

「悪い兄弟。今日が『妹の日』らしいから姉さんが3人の中で誰が一番妹らしく振る舞えるかって言い出して……」

「なるほどな。ていうかモモの彼氏である俺にとってカズは実際妹みたいなもんだし、いつかは本当にそうなるだろうしな」

「いきなり恥ずかしい事言っな！」

9月7日は？

「この なんのきゝきなる ー」

「どうしたワン子？ いきなり歌いだして」

「あ、お姉様！ 知ってた？ 今日って『CMソングの日』なんで  
すって。大和が言ってた」

「ふうん、だからさっきの歌が」

「うん！ CMソングって言われて真っ先に思いついたのがあの歌  
なの！ お姉様は何を思いつく？」

「私か？ 私は『ピク ン』だな」

「ピ、ピク ン？」

「ああ、ゲームのCMであっただろ？ 『赤ピク ンは火に強い』  
とか言うのが」

「確かにあつたけどそれがいったい？」

「いやなに、あのピク ンの種類が仲間たちにかぶる事があってな。  
ほらキャップは火に強そうだし、ジンは溺れる事ないだろ。タカな  
んか飛べそうだし、ガクトは力持ちだろ。それに京は間違はなく毒  
持ってるし」

（お姉様の感性って時々分からないわ……）

9月8日は？

「うゝ勉強なんて嫌いよお」

「文句言わないワン子。最低限の事はやっておかなきゃ恥かくのワン子だよ」

「分かってるわよ京」

「じゃあ1つ問題。1951年の今日、アメリカで何があつた？日本にも重要な事だよ」

「ええつと、ええつと」

「……終戦から6年、日本と連合国間の対日講和会議が開かれて時の総理、吉 茂が調印した条約だよ」

「分かったわ！『バカヤロー解散』！」

「お前がバカヤローだ。『サンフランシスコ平和条約』と『日米安全保証条約』でしょうが。それを記念して今日は『サンフランシスコ平和条約調印記念日』。何で変な事は覚えて必要な事忘れてんの」

「こ、怖いよ京」

「バカヤローの言葉に傾ける耳は持っていない」

「い、いやあああ！」

9月9日は？

「緋鷲刀、温泉に行くぞ！」

「うん、行ってくれば？　まとまった休みが入ったんだよね」

「何を惚けているんだ。お前も行くに決まってるだろ。さっさと準備しろ」

「あの凜奈さん？　僕今日も明日も学校があるんですけど？」

「そんなもの知らん。私はお前も連れて行くと決めているんだから学校の事なんかどうでもいい」

「どうしてもよくないから！　何で今日になっていきなり温泉に行くとか言い出したの？　いつもならもっと計画的に準備してるでしょ」

「今日9月9日は『温泉の日』だ。大分県の九重町が町内に『九重九湯』と呼ばれるほど温泉が点在しているから制定したらしい」

「だから？」

「だからだ」

「意味分かんないよ！？」

9月10日は？

「ねえみんな知ってた？ 今日って『カラーテレビ放送記念日』なんだよ。N Kと民放4社がカラーテレビの本放送を開始した日なんだ」

「またモロの要らない豆知識が始まったよ」

「京ちゃん、その言い方は酷いよ」

「豆知識、雑学っていうのはひけらかしたくなるのが人間の性だよ」

「っていうか、なんで京とタカと大和しか聞いてないの？」

「こんな時に話してんだから聞くわけないだろ」

「キャップ！ それアタシが狙ってたのに！」

「風を止める事は誰にも出来ないぜ！」

「モモ先輩！ 可愛い後輩に恵んでくれよ！」

「お前は可愛くないから恵んでやらんガクト」

「まあ分かってたけど……ていうか何で『910の日』<sup>ギュータン</sup>だからといって牛タンオンリーの焼肉パーティーなのさ……」

9月11日は？

「そういうえば最近、公衆電話を見なくなったな」

「ん？ 病院とか携帯の使用を制限されている所とか、駅や空港とかの公共交通機関のステーションにはちゃんと置いてあるぞ？」

「そうなんだが、道端ではめっきり見なくなったなあ」と

「で？ いきなりどうしたモモ」

「いや、大和から今日が『公衆電話の日』と聞いてな、道すがら公衆電話があるか見ていたんだ」

「まあ携帯の普及の影響だろ、確かにコンビニやスーパーの近くにあったやつは撤去されたしな」

「……おいジン、オチがないぞ」

「……いったい何を言ってるんだお前は」

9月12日は？

「なあワン子、今日は『マラソンの日』とされているが、なんでマラソンの距離が42・195キロなのか知っているか？」

「へ？ 限界に挑戦する『死に行くころ』って意味じゃないの？」

「は？ 『死に行くころ』？」

「おお。確かに『死<sup>42</sup>に行くころ<sup>195</sup>』だ」

「感心するな京、って誰だそんな語呂合わせの意味を教えたのは？」

「ガクト」

「よし後で殴っておこう。本当の由来は紀元前の『マントラの戦い』で勝利したアテネの兵士が勝利の報告のために走った距離36・750キロだったんだが、1908年のロンドンオリンピックの時にアレキサンドラ女王が『子供たちにスタートを見せてやりたい』と言っ我がままで今の距離になったんだ」

「ふん、で？ それを知ってて何かいい事あるの？」

「さあ？」

「だったら変な事に時間取らせないでよ！」

「私の大和の言った事を変な事だと？ この犬！」

「ごめんさい!？」

「お前のじゃないからな、京」

9月13日は？

「なあクリス、今日が『乃木大将の日』なのは知ってたか？」

「ノギタイシヨウノヒ？ 大和、何だそれは？」

「お前の性格からして知らないのは意外だったな……1912年の今日、乃木希典<sup>のぎ まれすけ</sup>って軍人とその夫人が明治天皇の大喪<sup>たいそう</sup>の礼<sup>らい</sup>って言う国葬の日に自刃して殉職した日なんだ」

「おお！ 主君の葬儀の日に哀悼の意を示し思い偲び、自ら果てるとはまさに武人の鑑！ さすが武士道精神の国だ！」

「大和、私も大和が死んだらすぐに後を追うからね？」

「おお！ この国は大和撫子にも武士道精神が通ずるのか！ 夫の死に付き従う妻！ なんて素晴らしい！」

「いや、京は俺の妻じゃないし恋人でもないからな？ そもそも今その考えはナンセンス……って聞いてないね」

9月14日は？

「ねえ大和、これなんかどう？」

「なあ京、お前はいつたい何がしたいんだ？ いきなり呼び出したと思ったら女性下着売り場に問答無用で連れてきて衆人觀衆のもとお前の下着を選ぶ。これは何かの罰か？ それとも俺に死ねと？」

「大和は知ってた？ 今日は『メンズバレンタインデー』って言うて、男性が女性に下着を送って愛を告白する日なんだよ」

「お友達でお願いします！！」

「大声で頭まで下げて速攻でお友達宣言！？ いくらなんでもそれはないよ大和……」

9月15日は？

「なあまゆっち、今日が『老人の日』なのは知ってたか？」

「もちろんです。2003年から祝日法の改正によって、それまで9月15にだった敬老の日が9月第3月曜日となるのに伴い、従前の敬老の日を記念日として残す為に制定されたからです」

「おおー！ まゆっちすっげー！ なんて博識なんだ！」

「ありがとうございます松風。今日はご老人を見かけたら優しくしましょうね」

「それはいいけどさまゆっち、同級生にすら声かけられないのにお年寄りに優しく声を掛けられるのか？」

「はうあ！？」

「しまった！？ オイラがまゆっちの心をえぐっちゃったぜ！ こうザクリと遠慮なくえぐっちゃったぜー！..！」

「何やってんだろっね、まゆと松風は……」

9月16日は？

「よっしゃ！　また当たったぜ！」

「何で最後に逆転されんだよ！？」

「7 - 3か……2番人気と3番人気だな」

「おいタク、ラジオと新聞を片手に何をやっているんだあいつらは？」

「あ、ジン兄。いや今日が『競馬の日・日本中央競馬会発足記念日』だつてキャップに教えたら……」

「ああ、競馬の予想をやるうとでも言い出したのか。それで結果は？」

「今8レース終わってガクトは負けが込んで、大和は五分五分。キャップはまさかの8連勝」

「性格が見て取れるな。しかもキャップは相変わらずの天運」

「そうだね。ジン兄もやってみる？　意外と面白いよ」

「俺はラジオや新聞を見てやらない。やるなら現場に行つてやる」

「馬の調子を直接見るの？」

「いや、勝たせたい馬の野生の本能を刺激して逃げ脚を速くさせて、

それ以外の馬に殺気をぶつけて居竦ませて勝たせなようにする」

「なにその超人めいたイカサマ!？」

9月17日は？

「そいいういやぁニユースで今日は『モノレール開業記念日』だって言ってたんだけどよ」

「なにガクト？ 詳しく知りたいの？ いいよ教えてあげる。あのね、なんで今日が『モノレール開業記念日』になったかって言うとな、1964年、昭和39年の今日が、浜松町〜羽田空港、今はの羽田空港とは別なんだけど、その間で東京モノレールが開業したんだ。あ、ちなみにこの沿線は日本初の旅客用モノレールで、遊覧用のものはそれより7年前の1957年、昭和32年に上野動物園に作られたものが最初だったんだって」

「あゝあ、始まっちゃったわね、モロの機械語り」

「しかも記念日雑学も入って止まりそうにないね」

「おいどうすりゃあいなんだよ？ 教えてくれワン子、タカ」

「責任とって最後まで聞けば？」

「血も涙もねえ幼馴染みたちだなオイ！」

9月18日は？

「知ってたかガクト、モロ。今日は『かいわれ大根の日』なんだぜ」  
「いきなりなんだよキャップ。ていいうかなんでそんなん知ってんだよ」

「いやーバイト先のおばちゃんがさ、かいわれ大根を大量に買ってたから『どうしたんですか』って聞いたら、『今日はかいわれ大根の日なのよ』って教えてくれたんだ」

「それは分かるけどなんでかいわれ大根を大量に買ってたんのさその人？」

「さあ？ 知らん。料理にでも使うんじゃないか？」

「大量のかいわれ大根を使った料理……いったいどんな料理が想像つかねーよ」

「ガクトのかーちゃんも大量に買っていたぞ」

「嘘だろ！？」

「ガクトの家にその正体不明のかいわれ大根料理が出てきそうだね」

9月19日は？（前書き）

注・独自見解設定あり

9月19日は？

「そういえば今日って『苗字の日』なんだって」

「ああ、確か1870年・明治3年の今日、戸籍整理のため太政官布告により平民も苗字を名乗ることが許されたらしいな」

「へー俺たちの苗字ってその頃付けられたのかな？ みんなに聞いてみようぜ！」

「川神は古いぞ。土地の名前になるほどだからな」

「椎名も古いよ。遅くても江戸後期にはあつたし」

「島津はどうだろうな……かーちゃんが言うには江戸末期には名乗ってたらしいぞ」

「黨も歴史があります。江戸初期頃にはありました」

「フリードリヒもドイツの古くからの軍人家系だ。200年以上の歴史がある」

「簗は江戸以前からの家だよ。発祥は室町時代って聞いている」

「暁は紀元前かららしいな。ざっと2000年以上だ」

「結局僕たち3人だけだね……」

「面白くないぞ大和！ 直江なのになんで古くないんだ！」

「人の苗字にケチつけるなよキャップ！」

9月20日は？

「よっ、はっ、ほっ」

「犬は何をやっているんだ？」

「あれはお手玉ですね。幼い頃に母上と一緒に遊んだ記憶があります」

「おお！ あれがOTEDAMAか！ KIを纏って投げると全てを破壊するといわれる大和撫子の護身武器！」

「オイコラクリ吉！ 一体全体どこからの知識だよそれってばYO！？」

「うん？ 大和から聞いたんだが、何でも今日は戦国の頃、城内に侵入した忍をその城の奥方が手に持っていたOTEDAMAで撃退した伝説の日らしいではないか」

「クリスさん、お手玉とは布で作られた球状のものをあやっつて落とす事なく、多くの数をジャグリングする昔からの日本の遊戯ですよ」

「確かに今日は『お手玉の日』だけど、そんな伝説なんてあるわけねーってばよYO！」

「なんだと！？ おのれ直江大和！ またしても騙してくれたな！」

「それを信じるクリ吉がどうかとオイラは思っつてばYO」

「こら松風、クリスさんは純真な方という事ですよ」

「純真にも限度があると思っつてばＹＯ」

9月21日は？

「見よ！ 俺様の姿を！」

「気色悪いマイナス100点」「冒涇だマイナス100点」

「なんでこんな動きにくい格好しなきゃなんねーんだ」

「なかなか、でも無理がある20点」「やっぱり変だな10点」

「姉さんの命令とは言え、男が着るものじゃないだろ」

「さすが大和って言いたけど今回は40点」「結構いけるな40点」

「恥ずかしいよねこれ……最悪でもカツラは被りたいよ」

「やっぱりモロは似はう。60点」「いいぞモロ口。65点」

「背が高いと似合わないぞこれ……」

「凄いねジン兄。70点」「後姿がヤバいぞジン。80点」

「これは何？ 僕に対する挑戦状？」

「さすがタカ！ 100点満点！」「文句なしだ。お前は性別を間違えた100点！」

「なあ犬、まゆっち、何をやっているんだみんなは？」

「今日が『ファッションショーの日』らしいので、モモ先輩考案の『男子限定女性着物ファッションショー』だそうです」

「面白いでしょーくり」

「意味が分らん」

9月22日は？

「ねえねえ今日って実は『One Web Day』で『オンライン生活を祝う世界的な記念日を作り、維持し、進展させ、普及させる』っていう世界的なイベントがある日なんだよ」

「なんだそりゃ？ ネット廃人たちのイベントか？」

「違うよガクト！ ネットが出来てよかったねっていう日だよ」

「なにが違うんだよ」

「直接会わなくても人との繋がりを作る事の出来るネット環境をもっとよくしていこう、それをもっとみんなに知ってもらおうってイベントなんだよね？」

「その通りだよ、さすがタカ！ やっぱガクトとは頭の作りが違う」

「ケンカ売ってのかモロ！？」

「でも卓也君、22日の記念日語りは意味ないよ。あれ見てよ」

「ジン〜。今日は夫婦の日だぞ〜」

「そうだな」

「大和、今日は夫婦の日だね」

「俺たち友達だろ？」

「なるほど……毎月22日は『夫婦の日』だったね……」

9月23日は？

「なあ兄弟、ヒロ、万年筆の名前の由来って知ってるか？」

「いきなりどうしたの大和君」

「今日が『万年筆の日』だからだろ。1809年の今日、イギリスのフレデリック・バーソロミュー・フォルシュが金属製の軸内にインクを貯蔵できる筆記具を考案し、特許を取った日らしいからな」

「よく知ってるねジン兄」

「なら話は早い。万年筆の名前の由来は2つの通説がある。1つは『fountain pen（泉のペン）』と海外で言われていた事と、半永久的に溢れ出るものを『泉のように湧く』と言う事から少し捻つての『万年筆』と呼ばれるようになったらしい」

「ふうん、それでもう1つは？」

「当時、万年筆の輸入を開始した丸善の店員、金沢万吉さんが一生懸命に販売していた事から『万さんの筆』と呼ばれるようになり、いつしか『万年筆』になったという説だな」

「よくそんなこと知ってたなヤマ」

「2つともなんて言うか……無理矢理感があるよね」

「というか、今日は普通に秋分の日でいいだろ……」

9月24日は？

「凜奈さ〜ん。休みだからっていつまでも寝てないでそろそろ起きてよ」

「う〜ん……」

「書斎の本棚の1番上の右端の段にあるアルバム全部破棄するよ」

「私の<sup>ベストマイコレクション</sup>緋鷺刀成長記録写真集を捨てるとは言語道断だ！」

「起きたね。それじゃあパジャマも洗濯するから着替えてね」

「面倒くさい……今日はどこにも行かないからこのままの恰好でいいだろ」

「書斎のビデオラックにあるテープ全部廃棄するよ」

「私の<sup>レジエントマイコレクション</sup>緋鷺刀成長記録映像集を捨てるとは悪逆非道だぞ！」

「じゃあ着替えてね」

「というか緋鷺刀、いったいお前は何をやっているんだ？ 使い古しのエプロンなんか着けて」

「今日が『清掃の日』らしいから自分の家を掃除しろってキャップの命令。ちゃんと証拠写真まで撮って来いって徹底ぶり……なんで一眼レフを構えているんですか凜奈さん？」

「ん？　なんでって、お前が証拠写真いるって言っただろ。任せろ  
100枚であろうと撮ってやるぞ」

「1枚で十分だよ……」

9月25日は？

「なあ、知ってたか『女王蜂』。今日って『主婦休みの日』なんだってさ」

「それがどうした」

「生活情報紙『リビング新聞』が日頃家事を主に担当している主婦を対象に読者アンケートを取り、その結果1月と5月と9月の25日を主婦がリフレッシュをする日、『主婦休みの日』と制定したらしいぜ」

「だから何であたいにそんな無駄な<sup>うんちく</sup>蘊蓄を聞かせるんだ」

「え？　だってだからあんた今日休みなんだろう？」

「あたいは主婦じゃねえ！　メイドだ！　それに今日は定休だ！」

「ぷっ！」

「……何がおかしい？」

「あんたの主婦姿を想像したら爆笑しかない。またしても俺を笑い殺す気か？」

「……テメエ……ブチ殺す！」

9月26日は？

「モロはパソコンが得意なんだろう？」

「得意ってほどじゃないけど、うん、みんなよりは詳しいね。けどどうしたのクリス？」

「いや、大和が『パソコンや機械関係の事はモロに聞け』というものだから……」

「何か知りたい事でもあるの？」

「別にないが気になって聞いてみただけだ」

「ふうん……あ、そうだ、ねえクリス、今日が『ワープロの日』だって知ってた？」

「いや知らなかったな。そんな日があったのか？」

「うん、1978年・昭和53年の今日、東芝が世界初の日本語ワープロ『JW-10』を発表したんだ。発売は翌年の2月だったんだけど、当初の値段、いくらだと思う？」

「20万ぐらいか？」

「630万円」

「な？　なんだその値段は！？」

「そもそもワープロっていうのは『ワードプロセッサ』の略称で、コンピュータで文章を入力、編集、印刷できるシステムのことなんだ。ワープロ機能をROM化して組み込んだあるワープロ専用機と汎用的なパーソナルコンピュータで動作するワープロソフトがあるんだけど、基本ワープロと言えば前者の事を指すんだ」

「え、ええっと……」

「さっき日本で初めてって言ったけど世界初のワープロは1964年に作られた」

「いったいこの話はいつまで続くんだ？」

9月27日は？

「何を見ているんですかタカさん？」

「うん、ちよつとこれをね」

「自動車教習所のパンフレット？」

「おうタカっち。なんだお前、バイクの免許でも取るのかい？」

「ううん、岳人君が持ってきたからちよつと見てただけ」

「あ、見て下さい、今日は日本の女性が初めて自動車の運転免許を取得した『女性ドライバーの日』らしいですよ」

「そういえばタカっちの叔母さん、凜奈さんは免許持ってるのか？」

「っ！？」

「タカさん？」

「…………… お願いです…………… お願いですから速度を抑えて下さい……………  
ここは公道です100キロはやめて下さい…………… スポーツカーだから  
つて無理にドリフトしないで下さい…………… カーブに向かってアクセル  
踏み込まないで下さい…………… 高速道路は高速で走る道路じゃありません  
…………… お願いですから200キロで走らないで下さい！」

「あのタカっちが震えてるぜ……………」

「いったいどんな運転をする方なんでしょうか……」

9月28日は？

「個人情報の保護に関する法律……いわゆる個人情報保護法が2005年4月1日に全面施行になったのは知ってると思うけど」

「いきなりどうしたヤマ？」

「プライバシー云々言われ出したのっていつからか知ってるか？」

「その頃じゃないのか？」

「それが違うんだよ。実は1964年・昭和35年の今日、三島由紀夫の小説『宴のあと』でプライバシーを侵害されたとして有田八郎元外務大臣が作者と発行元の新潮社を訴えていた裁判で、東京地裁がプライバシー侵害を認め、三島由紀夫に損害賠償を命じる判決を出したんだ。これが日本でプライバシーが争点となった初めての裁判だったため、今日が『プライバシーデー』と制定されたんだ」

「ふうん、で？ それで何が言いたいんだ？」

「……兄弟、俺にはプライバシーがあるんだろうか？」

「ねえモモ先輩、大和ったら夜中1時に起きたかと思うと、おもむろに自己燃焼促進の本を取り出してじっくり見入った後、枕元にティッシュ箱をおいて30分にもわたる」

「京おおお！ 俺のプライバシーを返せええええ！！」

「強く生きろヤマ……」



9月29日は？

「にゃあ〜ん？」

「……………」

「にゃん？ にゃんにゃん」

「いったいどうしたモモ。ネコミミにシッポまで付けて……ハロウインには1ヶ月ほど早いぞ？」

「彼女が可愛い格好をしているのに最初に突っ込むところがそこか？ 普通なら『可愛いよ』とか言うだろ、彼氏なら」

「いや、可愛いとは思ってるけど、どうしてネコミミなんだ？」

「何でも今日は『招き猫の日』らしい」

「だから猫の格好なのか。安直なのはこの際、置いとくとして、なんで今日が『招き猫の日』になるんだ？」

「9月29日で『9<sup>くる</sup>2<sup>ふ</sup>9』っていう語呂合わせらしいぞ」

「強引な語呂合わせな気がするがまあ理解は出来た」

「そうか。ならそろそろこつちを向いてくれてもいいんじゃないのか？ なあ彼氏？」

（可愛すぎて直視なんか出来るか！ ヤマかミヤだな、入れ知恵し

たのは！ 後で絶対にお仕置きをしてやるから待ってる！  
(

9月30日は？

「ガクト……ついにやっちゃったね」

「そうだな、よりによって今日やるとはな」

「いつかやるとは思っていたけど……僕が注意していれば」

「モロは悪くない。悪いのは馬鹿なガクト」

「京の言う通りだモロ、悪いのは無知なガクトなんだ」

「ありがとう大和、京」

「おいいったい何なんだこの雰囲気俺様がいったい何をした!？」

「くるみ、握り潰したでしょ？」

「何だよ京、そんなのいつもの事だろ？」

「今日は『くるみの日』でくるみ愛好家の人たちが制定した日なんだよ。知ってた、ガクト？」

「それがどうしたってんだモロ。別に知らなくても関係ないだろ！」

「お前は何の意味もなくくるみを握りつぶした事で、くるみ愛好家さんのくるみ大好きな心を踏み躪ったんだ！これは冒涇だぞ！  
謝れ！」

「え？ 俺様が悪のか？ ってかなんで大和はそんなに興奮してんだ？」

「「「いいから謝れ！」「」」

「くるみ愛好家にか？」

「「「違う！ くるみの木に、あなたの子供を握り潰してすみませんって言え！」「」」

「一気に重くなったな……っーか何？ これってイジメだよな……？」

10月1日は？

「どうよモロ？ 俺様似合うだろ？」

「ガラの悪いヤクザだよね。僕はどうキャップ？」

「まんまオタクじゃねーか！ 俺はどうよジン兄！」

「キャップはサングラスの方が似合いそうだな。俺は似合うか？  
モモ？」

「ああ、お前はどんな格好でも似合うぞ。私はどうだクリ？」

「意外と似合いますねモモ先輩。自分は似合うだろうか？ どうだ  
犬？」

「教育ママね。『ざます』とか言ってほしいわ。アタシはどうまゆ  
っち？」

「えっと」「少しは知的に見えるぜワン子ちゃん！ まゆっちはど  
うだタカっち？」

「僕はない方がいいと思うけど悪くないよ。僕はどうか大和君？」

「あー……悪い、女にしか見えん。聞きたくないが俺はどうだ京？」

「カッコイイ……操を捧げたいよ大和……期待してないけどどう？  
ガクト」

「Sっぽさゝ割増しだな京」

「だけど買っわけでもないのでメガネ屋で何やってんだろうね僕たち」

「今日が『メガネの日』だからだろ？ キャップと姉さんの決定には逆らえないよ」

10月2日は？

「2007年の6月、国際総会で今日が『国際非暴力デー』と制定された！」

「なんでだ？」

「それは今日10月2日があ有名なインド独立運動の指導者で、非暴力を説いたマハトマ・ガンジーの誕生日だからだ！」

「へえ、そっぴゃあの人、ノーベル平和賞の授与を5回も辞退してるらしいな」

「ああ、素晴らしい人だ！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 俺は今日！ 姉さんに暴力の空しさを説いてやりたいと思っている！ いい加減理不尽な暴力には耐えられん！」

「以前にもこんなやり取りがあつたような気がするが……盛り上がっているところ非常に申し訳ないヤマ」

「なんだ兄弟？」

「今回もお前の後ろにモモがいるからな」

「……………え？」

10月3日は？

「今日は『登山の日・山の日』らしいけど、みんな1度は登ってみたい山ってある？」

「また唐突だなモロ。10月3日で『103』の語呂合わせか」  
とさん

「私は大和の股間の山に」

「下ネタ禁止だミヤ」

「俺様もちろんチョモランマだぜ」

「おお！俺も登ってみてー！」

「自分は富士の山だな。日本の象徴だ」

「いいですね、私も富士山には1度登ってみたいと思います」

「富士山なんて登り飽きてるわ」

「何で、一子ちゃん？ああ川神院の修行の一環？」

「その通りだタカ。だけどあんなもん3時間もあれば往復できる。なあジン？」

「最高6往復したか？」

「姉さん、兄弟……頼むから人間の規格で喋ってくれ」

10月4日は？

「知っているか緋鷲刀、今日は『天使の日』らしいぞ」

「『天使の日』？ ああ、語呂合わせで『10<sup>てん</sup>4<sup>し</sup>』だね」

「ところで緋鷲刀。お前は天使と聞くと何を思い浮かべる」

「何って、普通に背中に翼の生えた人でしょ？ よく神の使いとか言われて神話とか伝承とかに登場する」

「ふむ、貧困な想像力だな」

「作家の凜奈さんと一緒にしないでよ。急に言われて思いつくのはありきたりな想像ばかりだよ」

「唐突に聞くが、今お前がご執心のあの子の事だが」

「ご執心って……そんなじゃないからね。でも、まゆがどうしたの？」

「胸のサイズ、およびブラのカップは幾つだ？」

「なっ！？ 急に何を言い出すの凜奈さん！？」

「知っていたか緋鷲刀、今日は婦人下着メーカーのトリンプインターナショナルジャパンが2000年に、同社の製品『天使のブラ』の1000万枚販売達成を記念して制定されたんだぞ。だから『天使の日』だ」

「そんな知識、知りたくなかったよ!」

10月5日は？

「ワン子」

「やっぱ体育かな？ 大和」

「政治経済だな。タク」

「情報処理とかかな。ジン兄」

「何でも出来そうだが、数学とか似合いそうだな。タカ」

「国語だな。なんかそれっぽい。クリ」

「歴史ですね。詳しくそうです。モモ先輩」

「思い浮かばねーよ。保健体育？ まゆっち」

「家庭科とかじゃね？ キャップ」

「想像できない。あえて言うなら考古学？ ガクト」

「体育以外出来ないでしょ。京」

「なんでだろう。養護教諭しか思い浮かばない。っていうか、そもそも全員が教師やってるイメージが全くない気がするの俺の気のせいかな？ 兄弟？」

「まあそう言うなヤマ、ただの遊びだろ」

「今日が『世界教師デー』だからって、なんで教師として似合いそんな科目を言い合わなきゃならないんだ……」

10月6日は？

「『すぐやる課』って知ってる？」

「すぐやるかって……早めに取り掛かる事だろ？ それぐらい俺様も知ってるよモロ」

「違うよ。今日10月5日は1969年・昭和44年に千葉県松戸市の市役所に『すぐやる課』っていう課が出来たんだよ」

「日本の役所にはそんな課があるのか」

「うん、何でも当時の市長の発案で『すぐやらなければならないもので、すぐやり得るものは、すぐにやります』をモットーに、役所の縦割り行政では対応できない仕事に、すぐ出勤してすぐに処理をする事を目的に設置されたんだ」

「住民のための課か。素晴らしいな」

「それとなクリス、その市長は松本清さんでドラックストアの『マツモト ヨシ』の創業者なんだぞ」

「引つかからないぞ大和。為政者が商業者なわけないだろ」

「いや、それ本当なんだけど……」

10月7日は？

「そうそう聞いてくれよ。今日さ、車上狙いしようとしてた奴らに出くわしたから一網打尽にしてやったんだ」

「犯罪を未然に防ぐとは、さすがキャップだ」

「でも危ないですよ、余り無理しないで下さい」

「それがさあ、立て続けに5回も遭遇しちまったんだよなこれが」

「むっ。日本はそんなに車上狙いが多いのか？ 1日に5件とは…」

…」

「こいつの遭遇率の方がおかしいだけだからな！ そう簡単に車上狙いやつてる奴と遭遇するなんてありえねーんだよ！ あれか？」

今日が10月7日で『107』<sup>とうなん</sup>って語呂合わせから『盗難防止の日』に制定されているからか？ お前どんな守護霊が付いているんだってばよ！」

「落ち着いて下さい松風」

「その後も原付のひつたくりも目撃してな。ちやうど俺も原付に乗ってたから、その犯人を追いかけたんだぜ。いやー、カーチェイスみたいで面白かったぜ！」

「何というか……実にキャップらしいが……」

「本当にキャップさんらしいですけど……」

「こいつ……良い悪い関係なく事件に遭遇する星の元に生まれてんだな……」

10月8日は？

「今日10月8日は『足袋の日』なんですよ」

「ふーん。なんでだ？ 語呂合わせとか関係ねえよな？」

「それはですね。日本足袋工業懇談会が1988年・昭和63年に制定しまして、10月以降は七五三・正月・成人式と、着物を着る機会が多くなるという事で、漢数字にすると末広がりで縁起のいい8日を『足袋の日』としたそうです」

「なるほどねえ。やけに詳しいじゃねえかまゆっち」

「まゆっちは小さい頃から着物をたくさん着てんだぜ。それぐらいの知識持っていて当然じゃねえか」

「で？」

「え？」

「それがいったいどうしたってんだ？ 俺様にはあまり関係ないんだけどな」

「こ、ここで1つ小粋なダジャレを！」

「なあなあまゆっち。今度足袋を219足買いに旅に出ようぜ」

「それはまたどうしてですか？」

「足袋を219足買いに『足袋<sup>たびにいぐ</sup>219』ってな！」

「何故だろう……その寒いダジャレを聞くと、俺様の胸に今、猛烈に懐かしい何かが込み上げてきやがるぜ」

10月8日は？（後書き）

ちよつとした中の人ネタ。歳がばれそうですね。

10月9日は？

「『トラックの日』『塾の日』『道具の日』『東急の日』ね……」

「タカさん？ 携帯電話を眺めてなにをしているんですか？」

「ああ、まゆ。今日がなんの日なのか気になってね。ちょっと調べていたんだ」

「そうなんですか」

「知ってた？ 今日は他にも『世界郵便デー・万国郵便連合記念日』でもあって、全世界を1つの郵便地域にする事を目的とした万国郵便連合が発足した日でもあるんだって」

「最近は携帯電話やパソコンの普及で手紙のやり取りは少なくなっ  
たって聞きますけどね」

「まゆは結構手紙書いてたよね？ 癖なの？」

「私はただ友達がいませんでしたので携帯電話を持っていなかった  
だけなんです……」

「えっと……ごめんね」

10月10日は？

「10月10日はいろんな記念日があるみたいんだけど、その1つに『目の愛護デー』があるんだって」

「記念日語り好きだなモロ。で？ どんな記念日なんだ？」

「うん、1931年・昭和6年に中央盲人福祉協会が『視力保存デー』として制定して戦後に厚生省、現在の厚生労働省だね、そこが『目の愛護デー』って改称したんだ」

「でもなんで今日なの？」

「10月10日の『10』を横に倒すと眉と目の形になるでしょ？そこからみたいなんだ。あ、ちなみに角膜移植のためのアイバンクも1963年・昭和38年の今日に開設されたんだよ」

「ふうん、そうなんだ……ねえ大和。もし私が失明したら手とり足とりぴったりと密着して先導してね？」

「弓は眼が命なんだろ？ その誇りを忘れる事はないと俺はお前を信じているぞ」

「弓をやってる自分が恨めしい……」

「結局そっち方面に行くんだね京は……」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3348w/>

---

真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ ～毎日が記念日 365日の小囃

2011年10月10日14時00分発行